

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので、送付します。



発生予察特殊報第1号

病虫害名 フタモンマダラメイガ
(*Euzophera batangensis* Caradja)
作物名 ナシ
発生地域 丹後、山城地域

1 発生経過

平成23年4月28日、京丹後市弥栄町のナシ園(品種：二十世紀、樹齢：30年以上)において、幹や枝の粗皮下を食害するチョウ目幼虫を確認した。採集した幼虫を飼育し、羽化した成虫を前京都府立大学教授 吉安 裕 博士へ同定依頼したところ、フタモンマダラメイガと同定された。その後の京都府丹後農業研究所による農家への調査により、他のナシ園でも、老木を中心に本種が発生していることが確認された(表1)。

本種は、カキ、クリの害虫として古くから知られているが、ナシでは平成11年に三重県で初めて被害が報告され、以後、愛知県、愛媛県、神奈川県、福島県、新潟県、山口県、静岡県で被害が報告されている。

表1 府内ナシ園におけるフタモンマダラメイガによる被害の発生状況調査(農家アンケート)*

質問	回答
Q1:発生樹はありますか?	ある:85.7%、ない:14.3%
Q2:発生樹の樹齢は?	~10年生:0%、~20年生:18.2%、~30年生:0%、30年生~:81.8%
Q3:具体的にどんな被害ですか?	小果:0%、新梢の伸長不良:7.7%、枝折れ:15.4%、樹勢低下:46.2%、樹の枯死:53.8%

* 丹後農業研究所が実施、回答数:14戸、Q3は複数回答

2 被害状況

幼虫が幹や枝の粗皮下に食入して、形成層を食害する。被害部位は黒変し、糸でつづられた虫糞の排出が見られる(写真1)。特に幹や枝の分枝部や剪定後の癒合部の被害が多い。主枝や垂主枝が集中的に被害(写真2)を受けると、その樹の樹勢は著しく衰え、収量の低下や徒長枝等の伸長が悪くなる(写真3)。粗皮のひび割れが多い老木に被害が多く見られる傾向がある。他県では、果実への被害も報告されている。

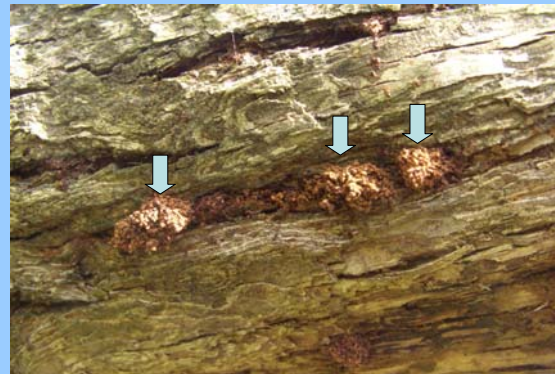


写真1 虫糞の排出(矢印)



写真2 主枝の集中的被害



写真3 徒長枝の伸長状況

上：主枝の被害多、下：主枝の被害少

3 形態及び生態

1) 成虫(写真4)は開張15mm程度。前翅は紫褐色で、2本の灰褐色の波状横帯が走る。後翅は灰褐色。幼虫(写真5)は終齢になると体長13mm程度となり、胴部は淡褐色、頭部は茶褐色を呈し、白色の薄い楕円形の繭(写真6)を形成して蛹化する。

2) 終齢幼虫で越冬し、越冬世代成虫は4月下旬～5月上旬に発生する。年3～4回発生し、夏期には羽化時期が交錯して世代の区分が不明瞭となり、幼虫は年中見られる。

4 防除対策

- 1) 本種に対して登録のある殺虫剤はない。減農薬栽培を実施している防除圧の低いナシ園では、被害の拡大に注意する。
- 2) 虫糞が排出している箇所を粗皮を削り、そこに生息している幼虫、蛹を捕殺する。



写真4 成虫



写真5 幼虫



写真6 繭の形成